

News Letter

毎年、私の担当分野である植物の調査は、早春季の調査からスタートします。暑くもなく寒くもなく、蚊がブゥ〜と飛びかうわけでもない絶好の調査日和のなか、フィールドで出会うと、また今年も調査シーズンが始まったんだなあ、という気持ちと、単純にきれいだなあ、という気持ちにさせられる植物があります。



ニリンソウ（キンボウゲ科）

春、落葉広葉樹の木々に新緑が芽吹きだす頃、すでに葉を広げ終え、花を咲かせている草花があるのを御存じでしょうか？ 皆さんの中にも早春の風物誌として、カタクリ、フクジュソウ、イチリンソウといった植物の名前を耳にしたことのある方も多いと思います。

先にあげた3種はいずれも「春植物」とよばれるグループに属しているものです。

「春植物」とは、科や属といった

植物分類学上のグループではなく、その生活形態に基づくグループの一つとして扱われているものであり、ユリ科、キンボウゲ科、ケシ科等の植物群の一部がこれに該当します。

いずれも多年生草本なのですが、普通の多年生草本の生育期間は春から秋までの数ヶ月なのに対し、春植物の生育期間は、生育環境である雑木林やブナ林等を構成している落葉広葉樹の葉が開く前の、早春のわずかな数週間に限られる点が

のも特徴と言えます。そのためか植物体は小型で、一部の種を除いては花も小型の種が多い傾向があります。

春植物は別名「スプリング・エフェメラル（春の妖精）」とされています。春の間しか姿を現わすことがなく、植物体全体が小型で可憐な花が多いからなのでしょう？

春植物の代表選手として、ユリ科の



フクジュソウ（キンボウゲ科）

春の野に咲く妖精たち

カタクリ（ユリ科）



カタクリだけが特にメジャーになっているような気がしますが、私個人としては、イチリンソウ、ニリンソウ、アズマイチゲ、キクザキイチゲ等のキンボウゲ科の春植物の方が、より小型で色も淡く、妖精のイメージに近いような気がして好きなのですが、いかがでしょうか？

(本社自然環境調査室・根本淳)



キクザキイチリンソウ（キンボウゲ科）

決定的な違いとなっています。わずかな数週間しか地上に姿を現わさず、残りの期間は球根やいもとなって地中にこもっています。地上生活がわずかな数週間に限られるため、光合成をする期間も短く、そのため成長は遅く、発芽してから開花するまで数年間もかかる種が多い



イチリンソウ（キンボウゲ科）